

『UFOの正体』

2015年7月27日 執筆

うちの奥さんは、私を間近で見ながらも「霊現象」については、いまだ半信半疑なのですが（すごく常識的で、まっとうな人間だから）「UFOは存在すると思う。だって、この広大な宇宙に、知的生命体が人間しかいないと考える方が不自然だから」と常々申しております。

逆に、私は自身が強烈な超常体験をしながらも「UFOだけは、どうも胡散臭い」と感じておりました。

ただ、存在すると思えないと、どうしても説明が付かない例証が多々、存在することも事実ですし、NHKのBSで放映していた特集を観るに至り「これは、存在しないと考える方が不自然である」と考えるようになりました。

『ハートメイカー』の中で「全知=分からないこと、知らないことはない」と豪語しながらも、UFOについては、まったく言及出来なかったことが不服だったのですが、『竹内文書』に関連する書籍を読んだことがきっかけ（スイッチ）になり、『ハートメイカー』執筆中と同じように、また、パタパタパタパタと思考が自動連鎖する形で「UFOの正体」も分かった気がします。

結論から先に述べれば、UFOに乗っているのは、ロスト・テクノロジーを有した古代人の末裔、すなわち人間です。宇宙から来ているという意味では宇宙人だけど、元々は地球から飛び立った人たちです。

順を追って説明しましょう。

私の頭の中には「5125周期の地球の重力変化に伴い、都度、人類の歴史（文明）がリセットされている」ということは前提的常識としてインプットされております。だから、遙か過去に、現代科学とは、まったく別の原理で発達した古代文明が地球上に存在していたであろうことも、また、当然のことと考えております。

で、グラハム・ハンコックの著作や『竹内文書』の記述から察するに、古代遺跡の類似/配置などから、超古代において、地球（世界）全体が何らかのネットワークで結ばれていた（繋がっていた）のは確かだと思います。

例えば、もし本当に私が予言する通り、本年9/23に「世界規模の大洪水」が地球全土を襲ったとしましょう。そうすると、スマートフォンやスカイツリーといった「現代文明の残骸」は残るでしょうが、世代を重ねるに連れて、そうしたテクノロジーは失われて行く。

それと同じで、古代文明も「遺跡」という形で残骸は残っているけれど、科学技術自体を継承する者は、もはや、地球上に誰もいない。そして、古代の科学が、現代文明とはまったく別の原理で構築されていたとしても、全然、おかしくはない。

* * * * *

一言で言えば、私は「古代科学」の原動力となっていたのは、現在、「気」や「超能力」と呼ばれている、人間が本来的に内在している「眼には見えない特殊能力」だった、と考えています。

例えば合気道の達人やレイキによるヒーリング等、ちょっと常識的には考えられないような「力」を発揮する人が存在することは、一般の人でも割と納得しやすいのではないかと思います。また、透視やテレパシーといった、いわゆる「超能力」が存在することも、統計学の見地から、科学的に証明されています。こうした「眼には見えない特殊能力」は、現代では衰退してしまったけれど、古代においては、ごく普通に、一般的に使われていた「科学原理（力）」だったのだらうと思うのです。

私は超古代においても、現在のジェット機に相当するような飛行機は存在していただらうと思います。ただ、古代において、その飛行機を飛ばしていた原動力は、恐らく物理的なエンジンではなく、思念（念動力）です。強力な思念（念動力）によって、飛行機を飛ばしていたとすると、現代と同じように世界各地を飛び回ることなど、造作もなかったでしょうし、航空速度や動きも、現代の飛行機とは比較にならないくらい、優れたものだったらうと思います。

古代人が「念動力」を科学の原理としていたと考えれば、巨石文明を含めて、現代科学では説明の付かない多くの古代遺跡（ロスト・テクノロジー）についても、説明が付きます。ここまでが、私の第一段階までの「仮説」です。

さて『ハートメイカー』にも書いておりますように、古代の人々は5125年周期で大洪水が発生することは、天体観測により承知していました。だから、発想としては「事前に宇宙（他の天体）に逃げる（非難する）」と考えたとしてもおかしくはありません。

古代科学が現代科学よりも、「優れもの」だったとすれば、現代のスペース・シャトル等より、はるかに高性能の宇宙船を有していたとしても、おかしくはない。そして、その宇宙船が、もし「思念（念動力）」で飛ぶ物体であれば、一瞬で長距離を移動することも可能だったらうと思います。

スピリチュアル業界では「すばる」や「プレアデス」といった言葉が、よく出て来ますが、太陽系よりも、はるか彼方の星団まで「移住」していたとしても、おかしくはないわけです。そして、地球とはまったく別の惑星で、もう一度、自分たちの文明を立ち上げ直した。念動力でテレポーテーション（ワープ）する飛行物体ならば、故郷である地球との行き来

も自由自在です。

UFOは目撃年代によって「形状」が異なりますが、かつて地球上で繁栄を築いた、宇宙に住む古代人のテクノロジーも、時代と共に進化しているのでしょう。

はるか古代、地球を飛び立った人間が、何を目的として地球を再訪しているのかは分かりません。観光目的なのか、調査なのか、もしくは、何らかのミッションを持っているのか……。ただ、ベーシック・コンセンサスとして「現生人類と直接コンタクトしてはならない」という「決まり」があるのだと思います。

結論として「謎の飛行物体」に乗っているのが、我々と同じ DNA を持った「人間」であることは、ほぼ、間違いないと思います。

私は「問い」に対して、納得出来る説明が付かないと、どうしても気が済まない性質なのですが、少なくとも、自分の中では唯一残っていた「UFO問題」に決着が付いて、スッキリしました。

私は、これが『答え (THE ANSWER)』だと思うのですが、皆様は、いかがお感じになるでしょうか？